

同志社大学図書館司書課程修了者の分析

原 田 隆 史

本稿は、同志社大学図書館司書課程・学校図書館司書教諭課程の修了者について述べようとするものである。また、同志社大学に連絡があった範囲に限定されてしまうが、卒業生のうち図書館に就職した人の数や就職先についても、可能な範囲で分析を行う。

1. 司書資格取得者数

同志社大学図書館司書課程（以下、司書課程とする）は1952（昭和27）年度に開設された。司書課程開設から、2012（平成24）年3月までの60年間に、4186人の司書資格取得者を送り出している。各年度における司書資格取得者数を各学部ごとに第1表に示す。また、年度ごとの動向を把握するため、司書資格取得者数の変化を第1図に棒グラフで示す。

ただし、1962（昭和37）年度までの司書資格取得者には卒業生だけではなく、同志社大学夏期大学や夏期講座の受講生で司書資格に必要な単位を取得した一般の受講生もある程度の割合で含まれている（履修の方法、形態や卒業学部などにより、所属する学部は多様）。特に初年度である1952（昭和27）年度及び1953（昭和28）年度の申請者は全員が夏期大学で単位を取得した学外からの（同志社大学卒業生も含まれているが）受講生であった（司書課程が開設されてから最初の卒業生が卒業したのは1954（昭和29）年3月である）。1963（昭和38）年度以降には、司書課程卒業生および聴講生（科目等履修生）に司書資格申請は限定されている。

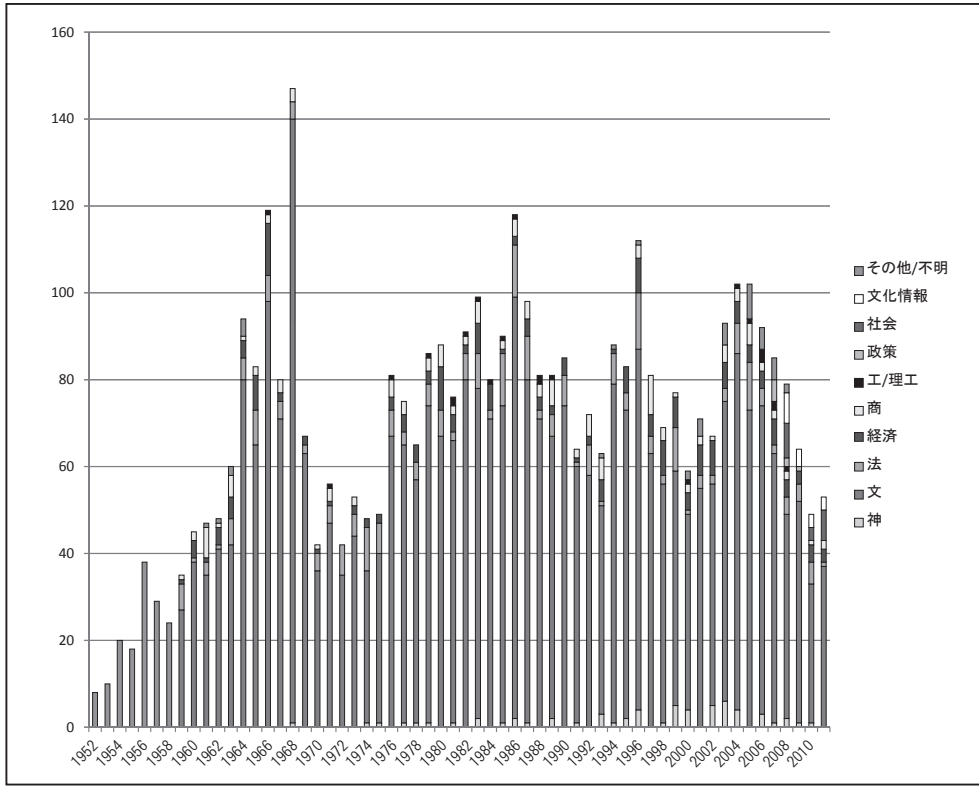
第1表および第1図に見られるように、司書資格取得者数は何度か大きく増減を繰り返し、平均司書資格取得者数は69.8人であった。司書課程開設から現在までの司書資格取得者数の変化を見ると、大きく分けて4つの波が見られる。

まず、司書課程開設から1968（昭和43）年度まで司書資格取得者数は順調に増加し、1968（昭和43）年度（1969年3月卒業）には147名という60年間で最も多い司書資格取得者数となっている。しかし、1969（昭和44）年度以降には急速に取得者数が減少し、1970（昭和45）年度（1971年3月卒業）および1972（昭和47）年度（1973年3月卒業）には過去最少の42名であった。これは大学紛争まっただ中であったというような、社会

第1表 各学部別司書資格取得者数

卒業年度	神	文	法	経済	商	工/理工	政策	社会	文化情報	その他/不明	合計
1952 (昭和27)										8	8
1953 (昭和28)										10	10
1954 (昭和29)										20	20
1955 (昭和30)										18	18
1956 (昭和31)										38	38
1957 (昭和32)										29	29
1958 (昭和33)										24	24
1959 (昭和34)	0	27	6	1	1	0				0	35
1960 (昭和35)	0	38	1	4	2	0				0	45
1961 (昭和36)	0	35	3	1	7	0				1	47
1962 (昭和37)	0	41	1	4	1	0				1	48
1963 (昭和38)	0	42	6	5	5	0				2	60
1964 (昭和39)	0	80	5	4	1	0				4	94
1965 (昭和40)	0	65	8	8	2	0				0	83
1966 (昭和41)	0	98	6	12	2	1				0	119
1967 (昭和42)	0	71	4	2	3	0				0	80
1968 (昭和43)	1	139	4	0	3	0				0	147
1969 (昭和44)	0	63	2	2	0	0				0	67
1970 (昭和45)	0	36	4	1	1	0				0	42
1971 (昭和46)	0	47	4	1	3	1				0	56
1972 (昭和47)	0	35	7	0	0	0				0	42
1973 (昭和48)	0	44	5	2	2	0				0	53
1974 (昭和49)	1	35	10	2	0	0				0	48
1975 (昭和50)	1	39	7	2	0	0				0	49
1976 (昭和51)	0	67	6	3	4	1				0	81
1977 (昭和52)	1	64	3	4	3	0				0	75
1978 (昭和53)	1	56	4	4	0	0				0	65
1979 (昭和54)	1	73	5	3	3	1				0	86
1980 (昭和55)	0	67	6	10	5	0				0	88
1981 (昭和56)	1	65	2	4	2	2				0	76
1982 (昭和57)	0	80	6	2	2	1				0	91
1983 (昭和58)	2	76	8	7	5	1				0	99
1984 (昭和59)	0	71	2	6	0	1				0	80
1985 (昭和60)	1	73	12	1	2	1				0	90
1986 (昭和61)	2	97	12	2	4	1				0	118
1987 (昭和62)	1	79	10	4	4	0				0	98
1988 (昭和63)	0	71	2	3	3	2				0	81
1989 (平成元)	2	65	5	2	6	1				0	81
1990 (平成2)	0	74	7	4	0	0				0	85
1991 (平成3)	1	59	1	1	2	0				0	64
1992 (平成4)	0	58	7	2	5	0				0	72
1993 (平成5)	3	48	1	5	5	0				1	63
1994 (平成6)	1	78	7	1	0	0				1	88
1995 (平成7)	2	71	4	6	0	0				0	83
1996 (平成8)	4	83	13	8	3	0				1	112
1997 (平成9)	0	63	4	5	9	0				0	81
1998 (平成10)	1	55	2	8	3	0				0	69
1999 (平成11)	5	54	10	7	1	0				0	77
2000 (平成12)	4	45	1	4	2	1				2	59
2001 (平成13)	0	55	3	7	2	0				4	71
2002 (平成14)	5	51	2	8	1	0				0	67
2003 (平成15)	6	69	3	6	4	0				5	93
2004 (平成16)	4	82	7	5	3	1				0	102
2005 (平成17)	0	73	11	4	5	1				8	102
2006 (平成18)	3	71	4	4	2	3				5	92
2007 (平成19)	1	62	2	6	2	2	5			5	85
2008 (平成20)	2	47	4	4	2	1	2	8	7	2	79
2009 (平成21)	1	51	4	3	0	0	1	0	4	0	64
2010 (平成22)	1	32	5	4	1	0	0	3	3	0	49
2011 (平成23)	0	37	1	3	2	0	0	7	3	0	53

- ・1969 (昭和44) 年度以降については、『同志社図書館学年報』の記録による。1968 (昭和43) 年度以前については司書資格取得者の成績原簿または申請書の控えから算出した。
- ・1952 (昭和27) 年度および1953 (昭和28) 年度については既卒者および夏期大学等での科目単位認定による申請者のみである。
- ・1958 (昭和33) 年度以前の資格取得者については、申請書に学部名が記載されていないため学部ごとの集計はできなかった。
- ・本文中に記述した通り、1962 (昭和37) 年度以前の資格取得者数中には、既卒者や他大学出身者で一部単位のみを夏期大学等で修得した人も含まれる。したがって、各学部卒業生の数を正確に反映するものではない。
- ・大学院の修了生については、対応する学部を含めた。



第1図 司書資格取得者数の年度別動向

の変化に加えて、1969（昭和44）年度から司書資格取得に必要な単位数が1968（昭和43）年度までの18単位から24単位へと大きく増加したことが大きく影響しているのではないと思われる。

1972（昭和47）年度に最少となった司書資格取得者数は、その後徐々に増加していく。その後1986（昭和61）年度まで増加傾向にあったものの、1986（昭和61）年度の118人をピークとして再び減少に転じ、振幅はあるものの徐々に長期減少傾向をたどった。1991（平成3）年度には司書資格取得者数は64人と1986（昭和61）年度の半分近くまで減少することとなった。この時期は社会的にはバブル景気の時代（1986年から1991年までとされる）にあたる。一般的には景気動向が不景気である時期ほど大学生の各種の資格取得への意欲が高まり、好景気では比較的意欲が鈍ることが予想される。資格取得者数の変動は景気動向をはじめとする社会状況に大きく影響された可能性がある。

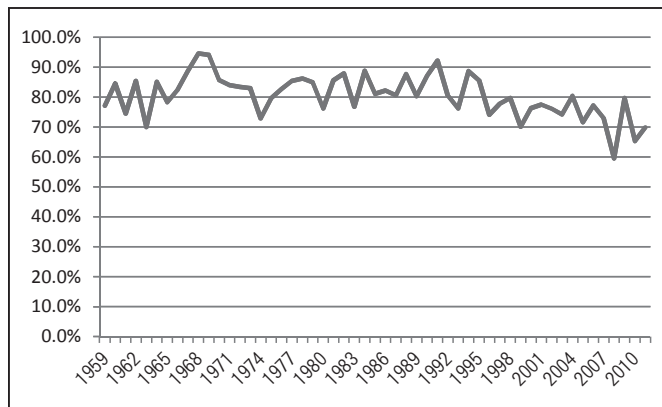
司書資格取得者数は1991（平成3）年度～1993（平成5）年度を境に増加に転じることになる。1991（平成3）年度に64名、1993（平成5）年度に63名であった司書資格取得者数は、1994（平成6）年度には83名、1996（平成8）年度には112名へと急激に増

加している。1991年2月にはバブル景気が崩壊したとされており、これによる影響がある可能性もある。また、司書課程では1992（平成4）年度に科目名の変更を行っている。さらに一部科目において現職者を招いての講演会、図書館見学会の実施など、教育内容面についても、よりいっそうの強化がはかられている。これらの活動が着実に実を結んだという側面もあると考えられる。

増加に転じた司書資格取得者数は1996（平成8）年度をピークに再度減少し、2000（平成12）年度には59名と1997（平成9）年度の81名の約3分の2となっている。これは1998年に図書館法施行規則が14年ぶりに大きく改正され、それにもなつて同志社大学でも1998（平成10）年度から司書資格取得のために必要な単位数が、従来の24単位から34単位へと大きく増加したことが影響していると考えられる。

その後、2000（平成12）年度を境として増加に転じ、2003（平成15）年度～2007（平成19）年度では、いずれも80名以上が司書資格を取得している。ただし、2008（平成20）年度～2010（平成22）年度は急速に司書資格取得者数は減少し、2010（平成22）年度では49名と約40年ぶりの少人数となっている。後述のように、2000年代後半から図書館職員としての採用状況が急速に悪化し、従来よりも図書館職員として採用される卒業生が大幅に減少したという状況が大きな影響を与えていることが考えられる。2011（平成23）年度および2012（平成24）年度（現在の4年生の司書課程履修者数が80名を超えていることからの推測）は多少多くの方が資格を取得する見込みとなっている。

また、学部別では司書課程開設以降、司書資格取得者数に占める人数としては安定して文学部卒業生が圧倒的多数であり、その平均は77.9%を占める。第2図に司書資格取得者数に占める文学部卒業生の割合の年次変化を示す。ただし、近年は徐々にではあるが文学部卒業生の占める割合は減少しており、1996（平成8）年度以降は、2004（平成



第2図 司書資格取得者数に占める文学部卒業生の割合

16)年度以外は80%を超えることはなくなってきている。2005（平成17）年度より文学部を母体として開設された社会学部をはじめとして、文化情報学部など新しい学部の卒業生が2008（平成20）年度より誕生した影響もあつてか、2008（平成20）年度以降については文学部卒業生の比率は70%

を下回ることが多くなってきている。

2. 司書教諭資格取得者数

同志社大学学校図書館司書教諭課程（以下、司書教諭課程とする）は1962（昭和37）年度に開設された。開設から、2012（平成24）年3月まで50年の間に、1926人の司書教諭資格取得者を送り出している。各年度における司書教諭資格取得者数を各学部ごとに第2表に示す。また、年度ごとの動向を把握するため、司書教諭資格取得者数の変化を第3図に棒グラフで示す。

第2表および第3図に見られるように、司書教諭資格取得者数も、司書資格取得者数と同様に何度か大きく増減を繰り返し、平均司書教諭資格取得者数は38.0人であった。司書教諭課程開設から現在までの司書教諭資格取得者数の変化を見ると、大きく分けて3つの波が見られる。

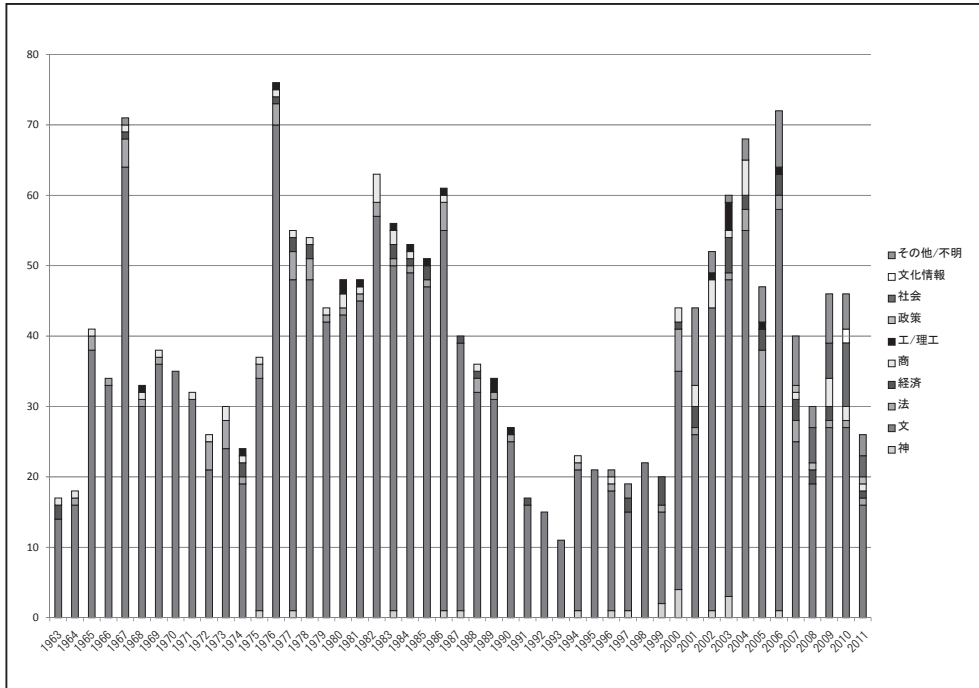
司書教諭課程開設から1967（昭和42）年度まで順調に増加し、1967（昭和42）年度（1968年3月卒業）には71名という司書資格教諭取得者数となっている。しかし、1968（昭和43）年以降には急速に取得者数が減少し、1974（昭和49）年度（1975年3月卒業）には24名であった。その後、司書教諭資格取得者数は徐々に増加し、多少の増加と減少を繰り返した後、1986（昭和61）年度から急速に減少に転じる。1993（平成5）年度には司書教諭資格取得者数は11人と過去最少にまで減少することとなった。この1986（昭和61）年度以降1990年代初頭にかけての急速な減少傾向は司書課程と同様であり、バブル景気の時代と重なる。

司書教諭資格取得者数は1991（平成3）年度～1999（平成11）年度に10～25名前後の数を続けた後、2000（平成12）年度から増加に転じることになる。2000（平成12）年度以降は2008（平成20）年度を除いて現在まで40名を超える数で推移している（2007（平成19）年度は30名）。2000（平成12）年度以降に、このように司書教諭資格取得者が増加した背景には、学校図書館法の附則2項が改正され、2003（平成15）年4月1日以降には「12学級以上の学校においては司書教諭をおこななければならない」ことが定められた影響が大きいものと思われる。また、1999（平成10）年度に司書教諭課程での必要単位数が1998（平成9）年度以前の16単位から10単位へと大幅に減少したことも影響を与えた可能性がある。ただし、前章で示したように司書資格と司書教諭資格を同時に取得しようとした場合には、司書資格に必要な科目に加えて従来は2単位増だけであったものが、1999（平成10）年度以降は10単位増になったともとらえることができる。詳細な分析については、今後の課題としたい。

第2表 各学部別学校図書館司書教諭資格取得者数

年度	神	文	法	経済	商	工/理工	政策	社会	文化情報	その他/不明	合計
1963 (昭和38)	0	14	0	2	1	0				0	17
1964 (昭和39)	0	16	1	0	1	0				0	18
1965 (昭和40)	0	38	2	0	1	0				0	41
1966 (昭和41)	0	33	1	0	0	0				0	34
1967 (昭和42)	0	64	4	1	1	0				1	71
1968 (昭和43)	0	30	1	0	1	1				0	33
1969 (昭和44)	0	36	1	0	1	0				0	38
1970 (昭和45)	0	35	0	0	0	0				0	35
1971 (昭和46)	0	31	0	0	1	0				0	32
1972 (昭和47)	0	21	4	0	1	0				0	26
1973 (昭和48)	0	24	4	0	2	0				0	30
1974 (昭和49)	0	19	1	2	1	1				0	24
1975 (昭和50)	1	33	2	0	1	0				0	37
1976 (昭和51)	0	70	3	1	1	1				0	76
1977 (昭和52)	1	47	4	2	1	0				0	55
1978 (昭和53)	0	48	3	2	1	0				0	54
1979 (昭和54)	0	42	1	0	1	0				0	44
1980 (昭和55)	0	43	1	0	2	2				0	48
1981 (昭和56)	0	45	1	0	1	1				0	48
1982 (昭和57)	0	57	2	0	4	0				0	63
1983 (昭和58)	1	49	1	2	2	1				0	56
1984 (昭和59)	0	49	1	1	1	1				0	53
1985 (昭和60)	0	47	1	2	0	1				0	51
1986 (昭和61)	1	54	4	0	1	1				0	61
1987 (昭和62)	1	38	0	1	0	0				0	40
1988 (昭和63)	0	32	2	1	1	0				0	36
1989 (平成元)	0	31	1	0	0	2				0	34
1990 (平成2)	0	25	1	0	0	1				0	27
1991 (平成3)	0	16	0	1	0	0				0	17
1992 (平成4)	0	15	0	0	0	0				0	15
1993 (平成5)	0	11	0	0	0	0				0	11
1994 (平成6)	1	20	1	0	1	0				0	23
1995 (平成7)	0	21	0	0	0	0				0	21
1996 (平成8)	1	17	1	0	1	0				1	21
1997 (平成9)	1	14	0	2	0	0				2	19
1998 (平成10)	0	22	0	0	0	0				0	22
1999 (平成11)	2	13	1	4	0	0				0	20
2000 (平成12)	4	31	6	1	2	0				0	44
2001 (平成13)	0	26	1	3	3	0				11	44
2002 (平成14)	1	43	0	0	4	1				3	52
2003 (平成15)	3	45	1	5	1	4				1	60
2004 (平成16)	0	55	3	2	5	0				3	68
2005 (平成17)	0	30	8	3	0	1				5	47
2006 (平成18)	1	57	2	3	0	1				8	72
2007 (平成19)	0	25	3	3	1	0	1			7	40
2008 (平成20)	0	19	0	2	0	0	1	5	0	3	30
2009 (平成21)	0	27	1	2	4	0	0	5	0	7	46
2010 (平成22)	0	27	1	0	2	0	0	9	2	5	46
2011 (平成23)	0	16	1	1	1	0	1	3	0	3	26

- ・1969 (昭和44) 年度以降については、同志社図書館学年報の記録による。1968 (昭和43) 年度以前については司書教諭資格取得者の成績原簿または申請書の控えから算出した。
- ・1962 (昭和37) 年度については、開設年度のため司書教諭資格取得者は存在しない。
- ・大学院の修了生については対応する学部を含めた。



第3図 司書教諭資格取得者数の年度別動向

3. 卒業生の進路

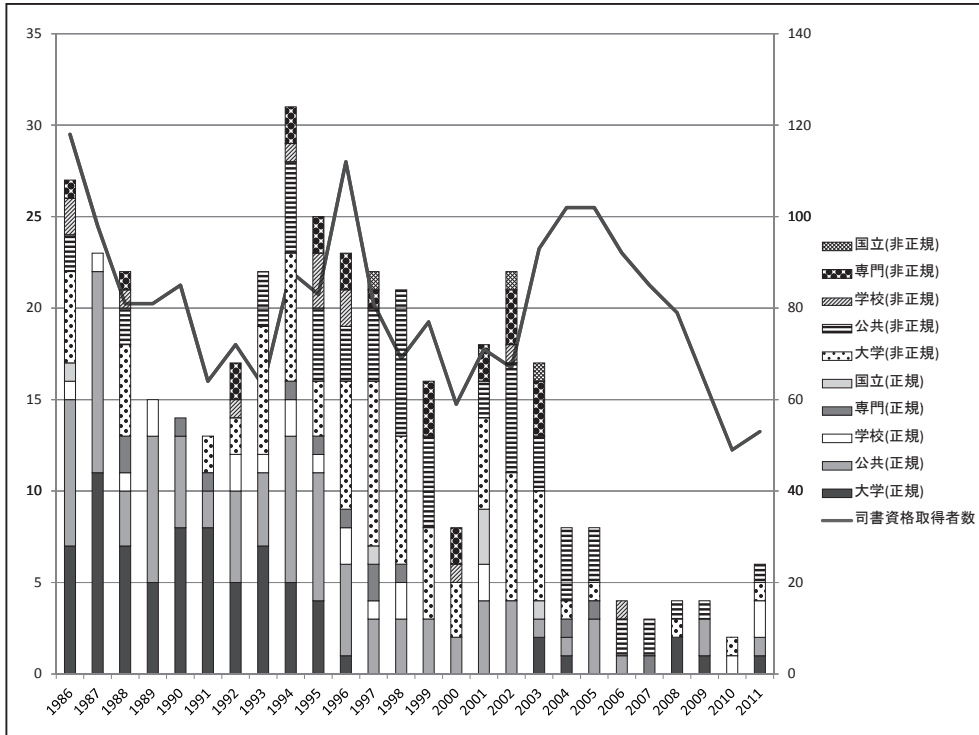
前項までに述べたように同志社大学で4186人が司書資格を、また1926人が司書教諭資格を取得してきた。

卒業生のうち、実際にどのくらいの割合の人々が図書館に就職したかについては、1986（昭和61）年度の卒業生（1987年3月卒業）以降についてのみ集計が可能である。各館種別に卒業生の就職人数を第3表および第4図に示す。各年度の就職者数には、卒業時に同志社大学が行ったアンケートに答えて就職先を登録してくださった方々の他、卒業の翌年以降に採用が決まり同志社大学免許資格課程センターもしくは図書館司書課程資料室に届けてくださった方々の数の両方が含まれている。また、第3表および第4図では卒業年度ごとの人数を集計しており、図書館に採用された年度を問わないものとした。したがって、たとえばある年に卒業した人が卒業時に採用された場合も卒業後数年たってから採用になった場合でも卒業年にあわせて集計している。

卒業時のアンケート調査の回収率は毎年40～60%程度にとどまり、また卒業の翌年以降に就職した人の中には同志社大学に連絡しない人も多いため、必ずしも全ての卒業生を把握できているわけではない。特に2005（平成17）年度以降については、卒業翌年以降に就職した卒業生からの連絡を受ける体制が必ずしも十分ではなかったことがあり、

第3表 各館種の図書館への年度別就職者数

	司書資格 取得者	司書教諭 資格取得者	大学図書館		公共図書館		学校図書館		専門図書館		国立国会図書館		大学 教員	計	
			正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規		正規	非正規
1986(昭和61)年	118	61	12		10		3		1		1			27(22.9%)	
			7	5	8	2	1	2		1	1			17(14.4%)	10(8.5%)
1987(昭和62)年	98	40	11		11		1		0		0			23(23.5%)	
			11		11		1							23(23.5%)	0(0%)
1988(昭和63)年	81	36	12		5		2		3		0			22(27.2%)	
			7	5	3	2	1	1	2	1				13(16%)	9(11.1%)
1989(平成元年)	81	34	5		8		2		0		0			15(18.5%)	
			5		8		2							15(18.5%)	0(0%)
1990(平成2)年	85	27	8		5		0		1		0			14(16.5%)	
			8		5				1					14(16.5%)	0(0%)
1991(平成3)年	64	17	10		2		0		1		0			13(20.3%)	
			8	2	2				1			2		11(17.2%)	2(3.1%)
1992(平成4)年	72	15	7		5		3		2		0			17(23.6%)	
			5	2	5		2	1		2				12(16.7%)	5(6.9%)
1993(平成5)年	63	11	14		7		1		0		0			22(34.9%)	
			7	7	4	3	1							12(19%)	10(15.9%)
1994(平成6)年	88	23	12		13		3		3		0			31(35.2%)	
			5	7	8	5	2	1	1	2				16(18.2%)	15(17%)
1995(平成7)年	83	21	7		11		4		3		0			25(30.1%)	
			4	3	7	4	1	3	1	2				13(15.7%)	12(14.5%)
1996(平成8)年	112	21	8		8		4		3		0			23(20.5%)	
			1	7	5	3	2	2	1	2				9(8%)	14(12.5%)
1997(平成9)年	81	19	9		7		1		3		2			22(27.2%)	
				9	3	4	1		2	1	1	1		7(8.6%)	15(18.5%)
1998(平成10)年	69	22	7		11		2		1		0			21(30.4%)	
				7	3	8	2		1					6(8.7%)	15(21.7%)
1999(平成11)年	77	20	5		8		0		3		0			16(20.8%)	
				5	3	5				3				3(3.9%)	13(16.9%)
2000(平成12)年	59	44	3		2		1		2		0			8(13.6%)	
				3	2			1		2				2(3.4%)	6(10.2%)
2001(平成13)年	71	44	5		6		2		2		3			18(25.4%)	
				5	4	2	2			2	3		2	9(12.7%)	9(12.7%)
2002(平成14)年	67	52	7		10		1		3		1			22(32.8%)	
				7	4	6		1		3		1		4(6%)	18(26.9%)
2003(平成15)年	93	60	8		4		0		3		2			17(18.3%)	
			2	6	1	3				3	1	1		4(4.3%)	13(14%)
2004(平成16)年	102	68	2		5		0		1		0			8(7.8%)	
			1	1	1	4			1			1		3(2.9%)	5(4.9%)
2005(平成17)年	102	47	1		6		0		1		0			8(7.8%)	
				1	3	3			1					4(3.9%)	4(3.9%)
2006(平成18)年	92	72	0		3		1		0		0			4(4.3%)	
					1	2		1						1(1.1%)	3(3.3%)
2007(平成19)年	85	40	0		2		0		1		0			3(3.5%)	
						2			1					1(1.2%)	2(2.4%)
2008(平成20)年	79	30	3		1		0		0		0			4(5.1%)	
			2	1		1								2(2.5%)	2(2.5%)
2009(平成21)年	64	46	1		3		0		0		0			4(6.3%)	
			1		2	1								3(4.7%)	1(1.6%)
2010(平成22)年	49	46	1		0		1		0		0			2(4.1%)	
				1			1							1(2%)	1(2%)
2011(平成23)年	53	26	2		2		2		0		0			6(11.3%)	
			1	1	1	1	2							4(7.5%)	2(3.8%)
小計	1791	805	160		153		34		36		9			392(21.9%)	
			75	85	92	61	21	13	12	24	6	3	5	206(11.5%)	186(10.4%)

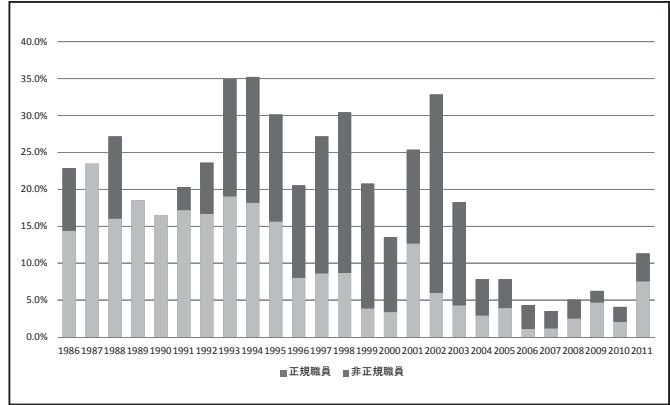


第4図 各館種の図書館への年度別就職者数

それ以前と比較して把握できている割合は若干低くなっていることが予想される。また、非正規職員として最初は採用され、数年たってから別の図書館の正規職員として採用された場合については重複して数えられている場合がある。このように第3表および第4図は必ずしも正確に全ての図書館に勤務する卒業生を示せてはいないが、これらの図表からある程度の傾向を読み取ることではできよう。

第3表および第4図に見られるように、司書課程、司書教諭課程の卒業生の多くが図書館員として採用されていることがわかる。特に2003（平成15）年度以前の卒業生では、司書資格取得者数を100%とした場合で、図書館に就職した人の割合が正規職員と非正規職員の両方をあわせると毎年10%を超えており、三分の一に達する年もあった。ただし、卒業の翌年以後に採用された場合や、司書教諭資格のみを取得して学校図書館に採用された卒業生もいるため、必ずしも司書資格取得者の三分の一が採用されているというわけではない。その中でも1995（平成7）年度卒業生以前では正規職員として採用される例が多く、各館種あわせると10名以上が毎年正規職員として採用されていた。図書館の正規職員として採用された人と、司書資格取得者数との比率では15%を超える。これに対して1996（平成8）年度以降の図書館に就職した人は非正規職員として採用される割合が急速に増加し、正規職員として採用される人は少ないという傾向が見られた。

そして2004（平成16）年度以降は非正規職員としての採用も少なくなり、ここ数年は数名が図書館職員となるにとどまるという状況にある。第5図に図書館司書資格取得者数に対する図書館就職者数の比率の年次変化を示す。



第5図 司書資格取得者数に対する就職者数の比率

館種別では大学図書館お

よび公共図書館に就職した人の割合が多く、その総数は正規職員の場合で大学図書館160名、公共図書館153名と、ほぼ同数である。また学校図書館および専門図書館（国立国会図書館を含む）に就職した人も、それぞれ34名、45名と一定数存在する。正規・非正規職員の区別では大学図書館および専門図書館では非正規職員として就職した人の比率が比較的高く、公共図書館および学校図書館では正規職員として就職した人の比率が比較的高い傾向が見られた。特に1996（平成8）年度以降では大学図書館の職員として採用された人の多くは非正規職員として採用されている傾向が強かった。

1986（昭和61）年度以前の卒業生の動向については、『同志社図書館学年報』第17号に、田村俊明らによる集計がある¹⁾。1990（平成2）年7月の時点で図書館に勤務している人を可能な範囲でリストアップし、そのうち正規職員である人々の属性について分析したものである。著者らが冒頭で述べているように、必ずしも網羅的な調査とはなっていないが、この調査と第3表のうち正規職員の数とをあわせて第4表に示す。

第4表で、1980年代以前については前述のように、1990（平成2）年時点で図書館に勤務している人だけをリストアップしたものであるため、それ以前に退職された方や、図書館以外の部署に転属された方などは数えられていない。また、当時は卒業時に図書館への就職先を届けなかった人も多かったことを考えると、実際にはもう少し多い人数が図書館に就職していたと想定できよう。この点を考慮した場合、1980年代以前についても1990年代と同程度以上の数の人が図書館に就職していたのではないかと推測することができる。

卒業生の進路として同志社大学図書館司書課程で学び、卒業後に大学教員となった人が非常に多いことも特筆すべきであろう。同志社大学大学院で図書館情報学を専門とし

第4表 卒業生の図書館正規職員数（卒業年代10年ごと）

	司書資格 取得者数	大学 図書館	公共 図書館	学校 図書館	専門 図書館	国立国会 図書館
1969年以前	972	21	4	13	7	1
1970年代	597	10	5			
1980年代	902	35	37			
1990年代	794	38	45	11	8	1
2000年代	814	6	16	2	2	4

- ・1980年代以前の人数は1990年6月現在の調査に基づくものであるため、全般的に（1970年代以前の卒業生については特に）人数が少なく集計されている可能性が高い。
- ・1980年代以前の卒業生として年代不明者が大学図書館で6名、公共図書館で1名存在する。

て修士課程を修了した4名は、そのうち3名が大学で司書課程、図書館情報学担当の専任教員となっており、もう1名も大学図書館員であると同時に勤務する大学の司書課程で科目を担当している。

また、同志社大学を卒業後、国内外の大学院で図書館情報学を学んだ人も数多く、その多くが大学教員として活躍している。現役の教員だけでも井上靖代（獨協大学教授）、渡辺智山（関西大学教授）など多数が図書館情報学教育に携わっている。同志社大学の専任教員としても同志社大学卒業後にハワイ大学大学院で **Master of Library Studies** を取得した渡辺信一や、慶應義塾大学大学院文学研究科図書館・情報学専攻で学んだ原田隆史はこの範疇に含まれよう。

さらに、同志社大学卒業後に図書館で働き、その後大学教員に転じたものも数多い。古くは伊藤昭治（元茨木市立中央図書館長、元阪南大学教授）、加藤三郎（元名古屋市名東図書館長、元滋賀文教短期大学教授）、山田泰嗣（元同志社中学校司書教諭、元佛教大学教授）などがおり、最近でも竹島昭雄（元栗東市立図書館長、現京都精華大学教授）、平井むつみ（元同志社香里中学校・高等学校司書、元同志社中学校司書教諭、現滋賀文教短期大学教授）、松田泰代（元京都大学図書館、現山口大学准教授）らが活躍している（松田は他大学の大学院で図書館情報学も学んでいる）。同志社大学の専任教員としても、宇治郷毅は元国立国会図書館副館長である。

専任教員以外にも、日本中の大学の図書館司書課程で嘱託講師や非常勤講師として科目を担当している卒業生は数多い。同志社大学図書館司書課程の卒業生で大学・短期大学の司書課程などで専任教員として勤務するものは、現役の教員だけでも10名を超え、非常勤教員まで含めると数十名に達する。これは現在大学院において図書館情報学教育

が行われていない大学としては異例とも言えよう。今後、同志社大学においても大学院教育が活発に行われることを期待したい。

開設以来、数多くの図書館員・教員を輩出してきた同志社大学図書館司書課程であるが、近年は図書館職員として就職する卒業生の数は必ずしも多くない。これは、全国的に図書館職員の求人が減少していることに加え、図書館業務を外部委託する傾向が強まってきたことなどによるものであるが、長年にわたって多くの図書館員を輩出してきた同志社大学図書館司書課程としては寂しい状況でもある。今後、卒業生諸兄にもご協力いただき、より高い質の卒業生を養成すべく、司書課程教員の一層の努力が求められているといえよう。

注

- 1) 第1表、第2表の注で示すように、1968（昭和43）年度以前の司書資格・司書教諭資格取得者数については成績原簿または資格申請書の控えから算出した。ただし、1962（昭和37）年度以前のデータについては、当時作成された集計表と若干のズレが存在する年度も存在する。詳細な調査については他日を期したい。
- 2) 本文中の指摘のくり返しになるが、本稿で示す図書館就職者数は大学が把握している範囲のみであり、全員ではない。たとえば、国立国会図書館に就職した人は、少なくとも10人以上存在することがわかっているが、本稿の取り扱う範囲では6名のみとなっている。

引用文献

- (1) 田村俊明ほか、同志社図書館人に関する一考察、『同志社図書館学年報』、No.17、1991、p.74-81.

（はらだ たかし。社会学部准教授）